

令和 8（2026）年度関西医科大学大学院看護学研究科

博士後期課程

入学試験問題 夏期

外国語（英語）

問題 1 次の問題を読み、後に続く各問題に答えなさい。

〔出典: S. K. Ahmed, Artificial intelligence in nursing: Current trends, possibilities and pitfalls, Journal of Medicine, Surgery, and Public Health, 3(2024), 100072 より一部改変〕

- 1) 下線部①を日本語に訳しなさい。
- 2) 筆者は、AI を活用するために看護師には何が必要だと述べていますか。日本語で説明しなさい。
- 3) 看護における AI の活用について、あなたの考えを述べなさい。

問題 2 次の問題を読み、後に続く各問題に答えなさい。

〔出典: I. I. Vong et al, Characteristics and quality of reporting qualitative nursing research related to the COVID-19 pandemic: a systematic search and critical review, BMC Nursing (2024)23:498 より一部改変〕

- 1) 下線部①を日本語に訳しなさい。
- 2) 下線部②において、質の低い質的研究が生み出されると筆者が考えた理由を、日本語で述べなさい。
- 3) コロナ禍等、感染症のパンデミック時にも看護研究を継続していくための方法について、あなたの考えを述べなさい。

令和 8 年度（2026） 関西医科大学大学院看護学研究科
博士後期課程 入学試験問題 夏期 外国語（英語）
出題の意図および解答例

問題 1

1)

【出題の意図】

近年話題となっている AI の進化と今後の看護のあり方について説明する文章であり、平易な単語を使用していることから、基礎的な読解力と文章構成力を評価する。

【解答例】

主な懸念事項のひとつは、患者ケアにおけるヒューマンタッチ（タッチング）が損なわれる可能性である。看護は、共感、思いやり、患者との有意義なつながりを形成する能力に深く根ざしている。AI による相互作用の導入は、人間的要素の喪失につながる可能性があり、患者の満足度と全体的な幸福に影響を与える可能性がある。

2)

【出題の意図】

全体の論旨を読み取り、適切に要約する力を評価するとともに、日本語の表現力、語彙力を評価する。

【解答例】

看護師は AI 技術の設計、開発、導入に関与し、これらのツールが看護師の臨床的専門知識と患者中心の価値観に合致するようにしなければならない。そのための研修プログラムを確立すべきである。さらに、看護における AI の使用を管理するために、透明性のあるガイドラインと規制の確立も必要である。またデータのプライバシー、アルゴリズムの偏り、患者の同意といった問題に対処するために、倫理的な枠組みを設けるべきである。看護師による定期的な監査と評価により、AI システムのパフォーマンスと影響を監視し、患者ケアの高い水準を維持できるように努める。

3)

【出題の意図】

今後看護師にとってより身近なツールになることが予想される AI への見識について問うことで、社会の課題を自身の課題としてとらえる力、日本語としての語彙力、表現力、文章構成力、論理的思考力を評価する。

【解答例】

筆者が述べるように、AI は患者のアセスメントや看護師間の情報共有に大きな影響を及ぼす。実際にヒヤラブル端末等で、病棟で会話した内容を看護記録に記載することができたり、アセスメントスケールや処方・指示を確認できるようになり、業務効率が上がることも報告されている。しかし、看護は人と人との関係性の中でその人を知り、個別性を深めることで、よりその患者に合った看護を提供できることから、基本的な判断や情報の整理は AI を活用しつつ、人と人同士のコミュニケーションをとることを第一義とすべきである。あわせて、AI が誤った判断を下した場合、看護師がどのようにその判断を補完するかといった倫理的視野に基づく看護実践への適応方法も、今後整備していく必要があると考える。

問題 2

1)

【出題の意図】

質的研究に関する基本的な内容を説明する文章であり、平易な単語を使用していることから、基礎的な読解力と文章構成力を評価する。

【解答例】

質的看護研究は、患者、家族、医療提供者の主観的な経験、認識、感情に対する洞察を提供し、研究対象の現象を理解するための統合的な視点をもたらす。

2)

【出題の意図】

本文中から適切な文章を選択し、適切な文章に表現する表現力、単語の意味を正確に把握し、表現しうる力、また文章中から適切な個所を選択し、適宜要約しうる文章構成力を評価する。

【解答例】

質的研究が従来行っていたデータ収集方法は困難になり、対面から電話やオンラインインタビューに移行した。こうした状況（バーチャルミーティングで顔を見せたがらない研究協力者や、マスクをした状態でのみ許可された対面インタビュー）はデータ収集の質と豊かさに影響を与え、態度、ジェスチャー、状況（背景）などの重要な非言語的要素が欠落した。そのような中、2 年間でパンデミックに焦点を当てた論文が 200 本発表されており、これらの論文が新しい情報として看護師の知識となり実践に生かされることから、筆者は、質の低い質的研究が生み出されることを懸念している。

3)

【出題の意図】

質的研究という、看護の場で多く用いられる研究方法について問うことで、研究に関する基礎的知識、日本語の語彙力、表現力、文章構成力、論理的思考力を評価する。

【解答例】

質的看護研究の質の担保に関しては、様々な方法がある。1つ目は量的研究と同様、信頼性を高めることである。質的研究において信頼性を高める方法としては、以下の2点が挙げられる。1) データの成立過程を明らかにしておくこと、2) フィールド調査、インタビュー、データ解釈などの方法を明らかにしておくことなどである。次に妥当性として、1)研究される現象は、研究者によってどのように構築されたのか、2)データはどのようにして成立したのかを記載し、第三者にとって透明性を担保することなどがあげられる。さらに、複数の研究者もしくは研究対象者によって分析の精度を確認する「トライアングルーション」も、データの妥当性を担保するために有効である。さらに、データの確実性を担保するために、どのデータがどのように得られたのかを、方法に詳細に記載することも必要である。